

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成25年度)

2. 分野等別状況 (1)国際戦略総合特区(2/7)

| | 評価区分(*1) | 総合評価 (IとIIの平均値にIIIを加味) | I 目標に向けた取組の進捗に関する評価 | II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況 | III 現地調査時の指摘事項及び対応状況等(*2) | 総合評価に係る専門家所見(主なもの) |
|-----------------------|----------|---------------------------|---|---|---------------------------|--|
| | | | | | | |
| グリーンアジア国際戦略総合特区(福岡県等) | 正 | A 4.8 | A 4.5 進捗度 ・当地域が貢献する環境を軸とした産業の年間売上高 111.5% | B 4.1 規制の特例等 ・外国人招聘に係る手続きの簡素化等 財政支援等 ・社会資本整備総合交付金 ・国際戦略総合特区支援利子補給金10件等 地域独自の取組 ・不動産取得税免除等 | +0.50 | <p>・数値指標による進捗状況に問題はない。4本柱(※1)の説明をみても、概ね計画どおり事業が進展していることがわかる。柱間の連携が進みつつあることや、アジア諸国への成果の普及(※2)にも意欲的であること、その成果が現れつつあることも評価できる。</p> <p>・研究調査を現実に展開するための多様な取組みが行われているが、結果だけでなく、進捗を把握する評価の仕組みも必要である。</p> <p>(※1)本特区では、①「アジア低炭素化センター」によるパッケージを中心とした環境ビジネスのアジア展開、②グリーンイノベーションを主導する産業拠点の形成、③資源リサイクル等に関する次世代拠点の形成と展開、④アジアとのネットワークを活用したシームレスなビジネス環境の実現を4本柱とした取組みが進められている。</p> <p>(※2)北九州独自の高度浄水処理技術の実証実験がベトナムで開始されたことをはじめ、省エネルギー型照明機器製造販売会社のタイへの進出、廃棄物リサイクル会社のインドネシアへの進出等が進展している。</p> |

◆評価書は[こちら](#)

◆評価結果は[こちら](#)

*1)「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。 *2)「Ⅲ」については、「地方公共団体による総合評価の状況」についても評価している。